

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	瑪久杰
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) A Study of Argumentation Theory of Shākya mchog ldan			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	根本 裕史	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	後藤 弘志	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	末永 高康	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	赤井 清晃	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	川村 悠人	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	小野 基 (筑波大学)	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、15世紀中頃～16世紀初頭のチベットで活躍したサキヤ派学僧シャーキャチョクデンの『論理精髓』を読み解き、彼の論証学の特徴とその思想史上の意義を明らかにするものである。</p> <p>論文は序論、本論、付論「翻訳研究」より構成される。序論では伝記資料等の分析に基づいてシャーキャチョクデンの生涯と主要な著作を紹介した後、チベット仏教サキヤ派論証学の一般的特徴を明らかにした上で、本研究の目的と方法を示している。</p> <p>第1章では有効な証因の三様態について考察している。シャーキャチョクデンはサキヤ派の伝統的見解に従って、証因の三様態（例：主題「音声」における証因「所作性」の存在、同類「非恒常的存在」のみへの「所作性」の随伴、異類「恒常的存在」からの「所作性」の排除）が証因とは別個に対論者によって認識されるべき三つの事柄として理解するのに対し、ゲルク派の学者達は証因の三様態（例：主題「音声」に存在することが知られた「所作性」、同類「非恒常的存在」のみに随伴することが知られた「所作性」、異類「恒常的存在」から排除されることが知られた「所作性」）が証因それ自体と無区別なものとしてあると理解している点を論じ、認識論と存在論の二つの視点が交錯する仏教論証学の特徴を浮き彫りにしている。</p> <p>第2章では同類と異類の区分やそれぞれの定義について考察している。シャーキャチョクデンが、これから論証対象を把握しようとしている対論者の視点から論理空間を同類と異類とに区分するサキヤ派の伝統的見解を認める一方で、それらを客観的事実に即して区分するゲルク派の見解も部分的に受け入れていること、また同類に関しては、彼の師であるロントンがディグナーガの『因明正理門論』に見られるような疑わしい定義（「論証対象と共通の性質を持つもの」）に積極的意味を見出す考えを示していたのに対し、シャーキャチョクデンはその考えを修正して伝統的な定義（「主題と共通の性質を持つもの」）を復活させていることを論じ、サキヤ派内部での思想的多様性を明らかにしている。</p> <p>第3章では否定的論証の諸相について考察している。初期カダム派では含意的否定によって知られるのは肯定的存在のみであると考えられていたが、シャーキャチョクデンはサキヤ派の伝統的見解に従って、肯定的存在と否定的存在のいずれもがそれによって知られ得るとした上で、含意的否定には「純粹否定」と「否定・肯定の連合体」の二種があるという独自の理論を</p>			

立っていること、それによって彼が対論者の認識のあり方を緻密に分析していることを明らかにしている。

結論では、以上の考察に基づき、シャーキャチョクデンの論証学が伝統的なサキャ派説の再提示に終始するものではなく、敵対するゲルク派説の部分的受容や、サキャ派説への一部修正を提案する点で、完全に独自のものであることを指摘している。

本論文は、従来学界で知られていなかったシャーキャチョクデンの論証学を本格的に取り上げ、その内容を深く掘り下げた点で画期的である。サンスクリット語・チベット語文献資料の提示や訳語の選択に関しては若干の不備も見受けられたが、存在論と認識論が複雑に絡み合う論証の諸問題を新たな視点から浮かび上がらせることに成功しており、インド・チベット仏教論証学研究に大きく貢献するものとして評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)